
日本循環器協会 設立概要

令和3年5月10日 設立

日本循環器協会代表理事
東京大学大学院医学系研究科循環器内科学
小室一成



日本循環器協会

JAPANESE CIRCULATION ASSOCIATION

日本循環器協会は

日本循環器学会、日本心臓財団とともに活動し
循環器病患者・家族、自治体や企業との連携を基盤として
循環器病診療と研究のプラットフォームの役割を担う新組織です。

「架け橋」としての組織



日本循環器協会
JAPANESE CIRCULATION ASSOCIATION

- ロゴマークの3人は「患者」「医療者」「企業」による三位一体の精神を表します。
- ハートは「心臓病」と「こころ」、そして包み込む手は「温かなサポート」を表します

～ロゴマークに託す想い～

- ① 日本循環器協会は「患者」「医療者」「企業」を結ぶ架け橋になります。
- ② 日本循環器協会は「日本循環器学会」「日本心臓財団」とともに循環器疾患の撲滅を目指します。

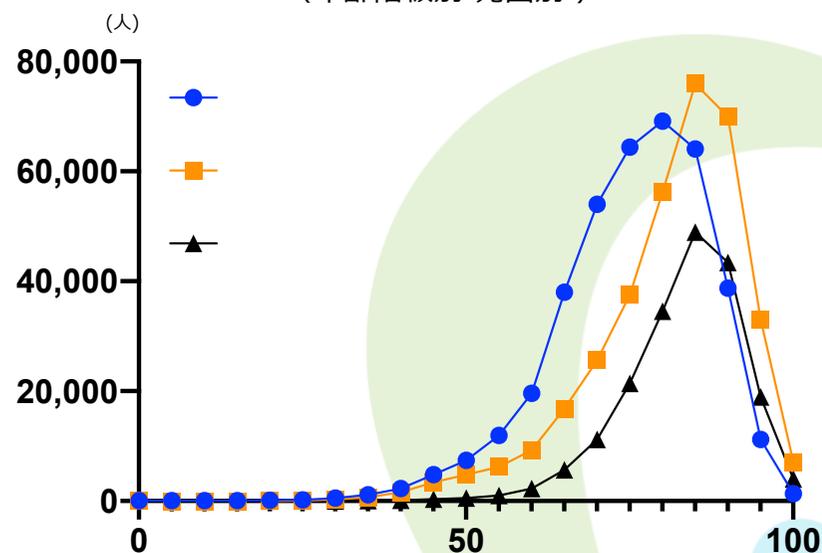
設立背景（循環器病による死亡）

e-Stat

政府統計の総合窓口

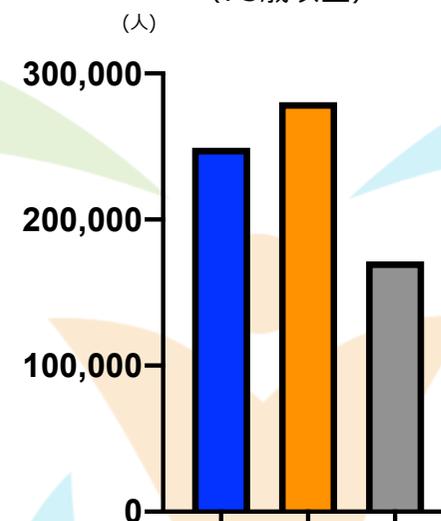
統計名:	人口動態調査 人口動態統計 確定数 死亡	
表番号:	2	
表題:	[下巻] 死亡数, 死因 (死因简单分類) ・ 性・年齢 (5歳階級) 別	
実施年月:	2019年	
表章項目:	10100	死亡数【人】
時間軸(年次):	2019000000	2019年

死亡数
(年齢階級別 死因別)



* 循環器系の疾患には脳卒中を含む

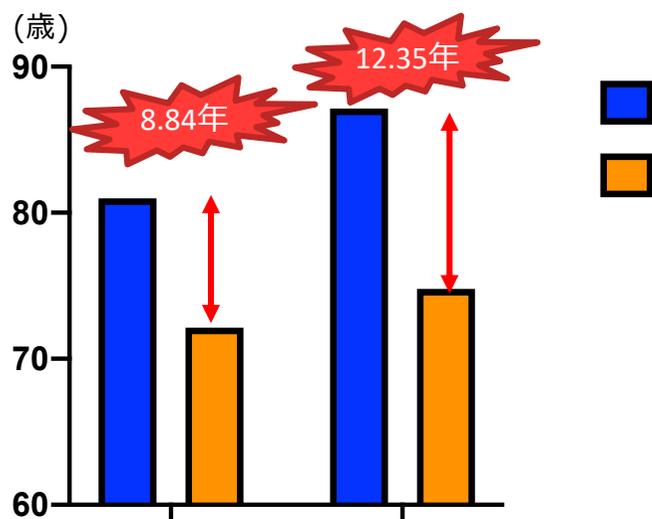
死亡数
(75歳以上)



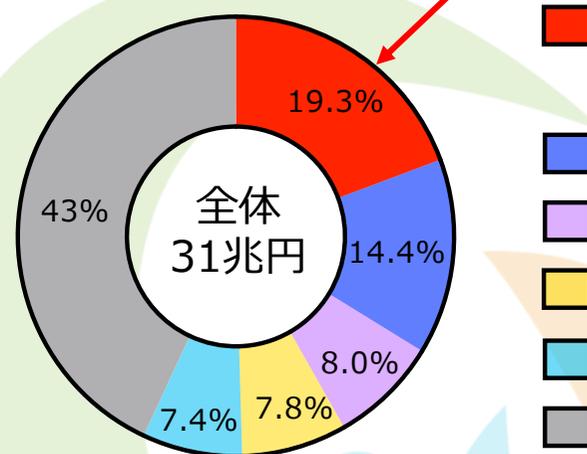
高齢者では、がんよりも循環器病で亡くなる方が多い

設立背景（循環器病による社会的負荷）

平均寿命と健康寿命の差 (2016年)



傷病分類別医療診療医療費
(平成30年 上位5位)



平成 30 年度 国民医療費の概況より

循環器病は“いま”対策が必要な大きな課題です

* 循環器病： 血液の流れ（循環）の異常で起こる病気。
心臓がポンプ、血管がホースの役割を果たし、血液の流れを作ります。
脳卒中や心筋梗塞、大動脈解離などを含みます。

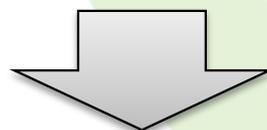


令和元年

「健康寿命の延伸、医療費・介護費の削減」を実現するために 以下のような対策が必要

- 脳卒中・循環器病で年間33万人が死亡している
- 超高齢化で患者数が増加する一方
- 脳卒中・循環器病に関わる医療費は全体の20%、6兆円。増加の一途

- 救急治療とリハビリテーションで生活の質を大きく改善できる
- 脳卒中対策をすることにより、寝たきり・認知症対策になる
- 予防法の普及で発症が減らせる



令和元年12月1日

脳卒中・循環器病対策基本法 施行

(“健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法”)

「循環器病対策推進基本計画」が閣議決定されました



日本循環器協会
JAPANESE CIRCULATION ASSOCIATION

令和2年

厚労省HPより https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14459.html

循環器病対策推進基本計画案 概要

全体目標 「1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発」「2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実」「3. 循環器病の研究推進」に取り組むことにより、2040年までに3年以上の健康寿命の延伸、年齢調整死亡率の減少を目指して、予防や医療、福祉サービスまで幅広い循環器病対策を総合的に推進する。
(3年間：2020年度～2022年度)



個別施策

【基盤】循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備 ▶ 循環器病の診療情報を収集・活用する公的な枠組み構築

1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

○ 循環器病の発症予防及び重症化予防、子どもの頃から国民への循環器病に関する知識(予防や発症早期の対応等)の普及啓発

2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進 ▶ 特定健康診査・特定保健指導等の普及や実施率向上に向けた取組を推進
- ② 救急搬送体制の整備 ▶ 救急現場から医療機関に、より迅速かつ適切に搬送可能な体制の構築
- ③ 救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築 ▶ 地域の実情に応じた医療提供体制構築
- ④ 社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援 ▶ 多職種連携し医療、介護、福祉を提供する地域包括ケアシステム構築の推進
- ⑤ リハビリテーション等の取組 ▶ 急性期～回復期、維持期・生活期等の状態や疾患に応じて提供する等の推進
- ⑥ 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援 ▶ 科学的根拠に基づく正しい情報提供、患者が相談できる総合的な取組
- ⑦ 循環器病の緩和ケア ▶ 多職種連携・地域連携の下、適切な緩和ケアを治療の初期段階から推進
- ⑧ 循環器病の後遺症を有する者に対する支援 ▶ 手足の麻痺・失語症・てんかん・高次脳機能障害等の後遺症に対し支援体制整備
- ⑨ 治療と仕事の両立支援・就労支援 ▶ 患者の状況に応じた治療と仕事の両立支援、就労支援等の取組を推進
- ⑩ 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策 ▶ 小児期から成人期にかけて必要な医療を切れ目なく行える体制を整備

3. 循環器病の研究推進

- 循環器病の病態解明や予防、診断、治療、リハビリテーション等に関する方法に資する研究開発
 - ▶ 基礎研究から診断法・治療法等の開発に資する実用化に向けた研究までを産学連携や医工連携を図りつつ推進
 - ▶ 根拠に基づく政策立案のための研究の推進

循環器病対策の総合的かつ計画的な推進

- 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化、都道府県による計画の策定、基本計画の評価・見直し 等

健康寿命の延伸・年齢調整死亡率の減少

日本循環器学会のみでは十分に対応できない
“院外”連携のニーズ

子どもから大人までの予防啓発

多職種・多段階のシームレスな医療連携

予防・リハビリを含む研究の推進

学会活動を補完する団体が必要!

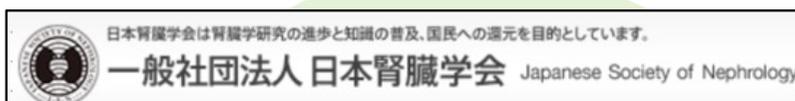
循環器病には「協会」がなかった

糖尿病

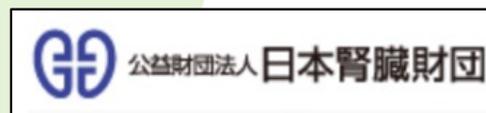
腎臓病

循環器病

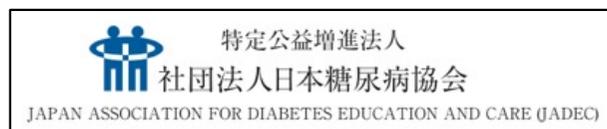
学会



財団



協会



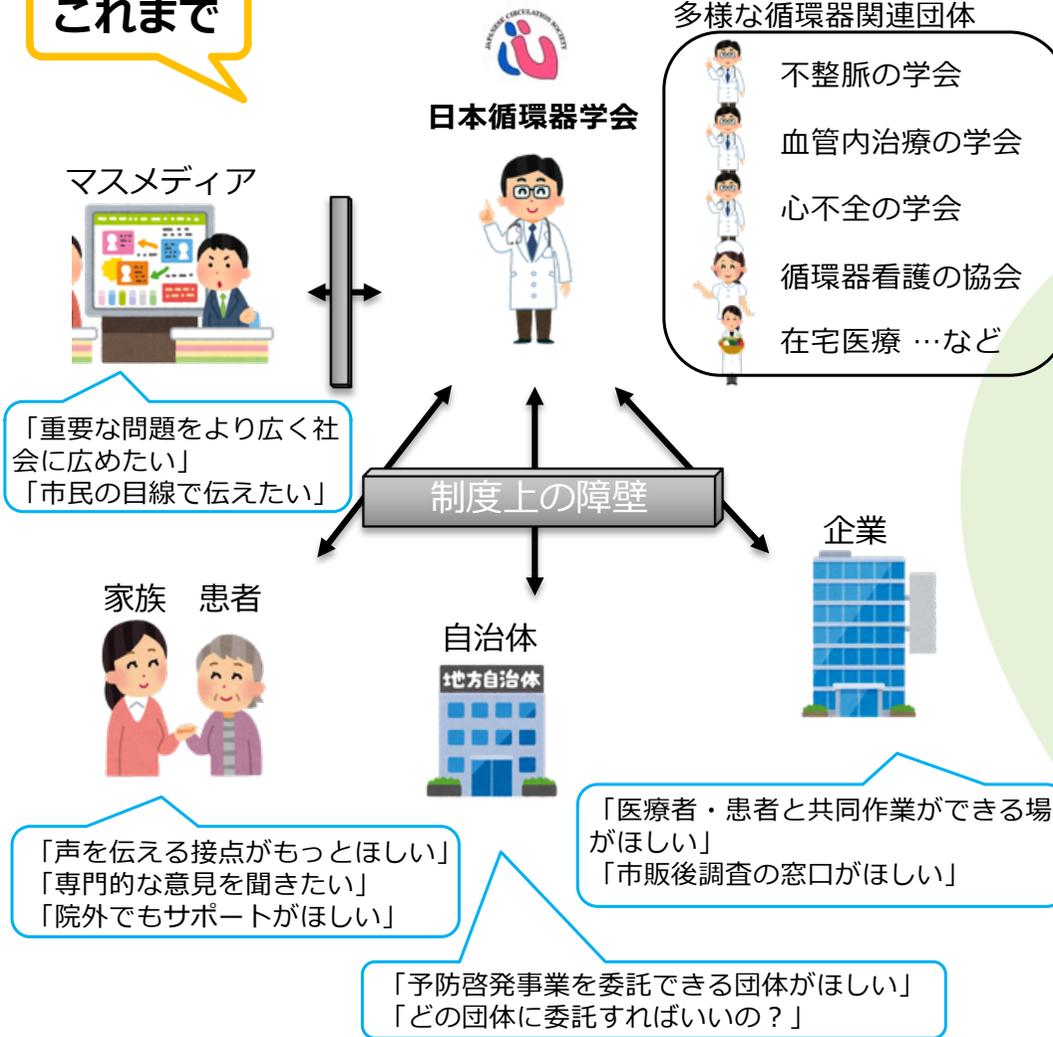
循環器病領域においては患者や企業、自治体との連携が限定的です

学会が解決困難な諸問題を協会は解決できます

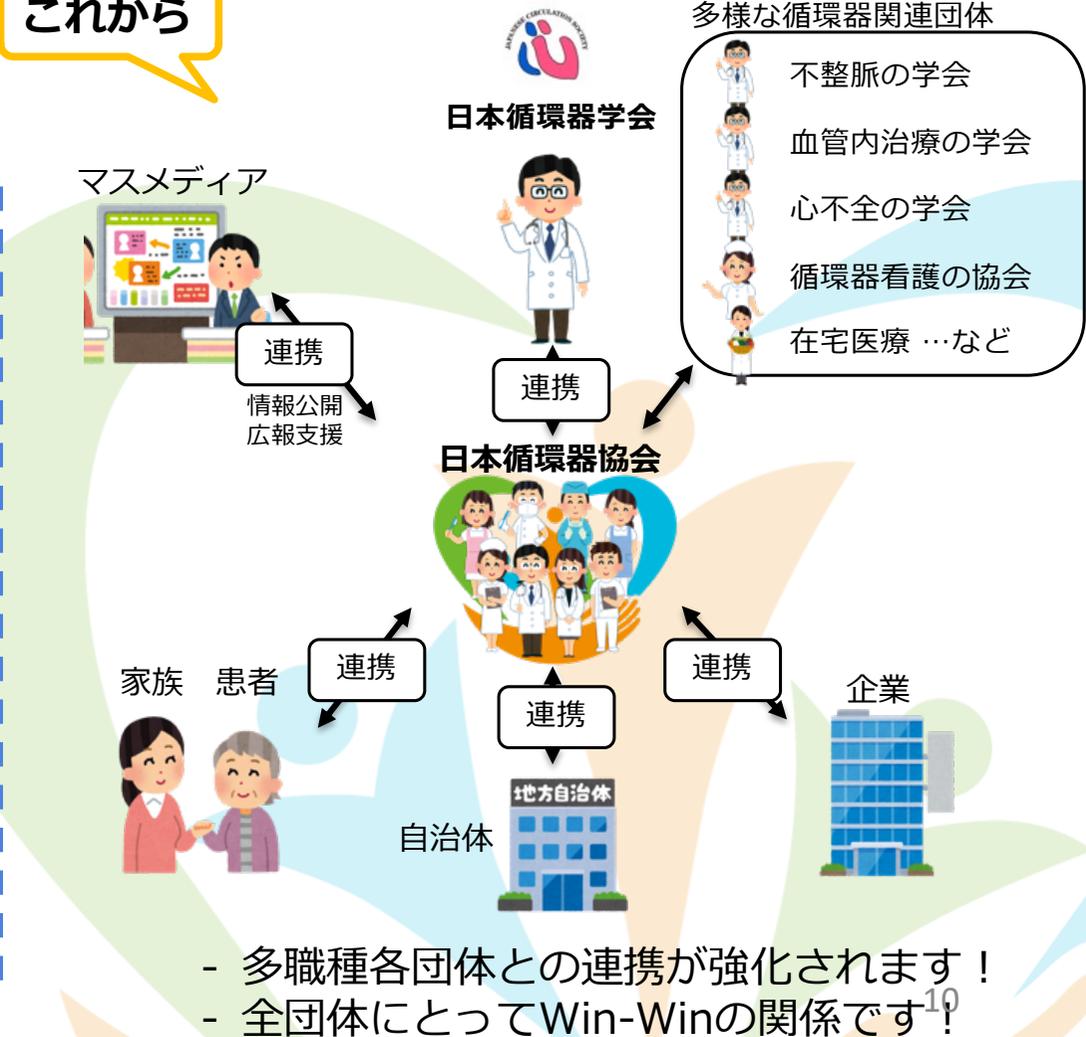


日本循環器協会
JAPANESE CIRCULATION ASSOCIATION

これまで



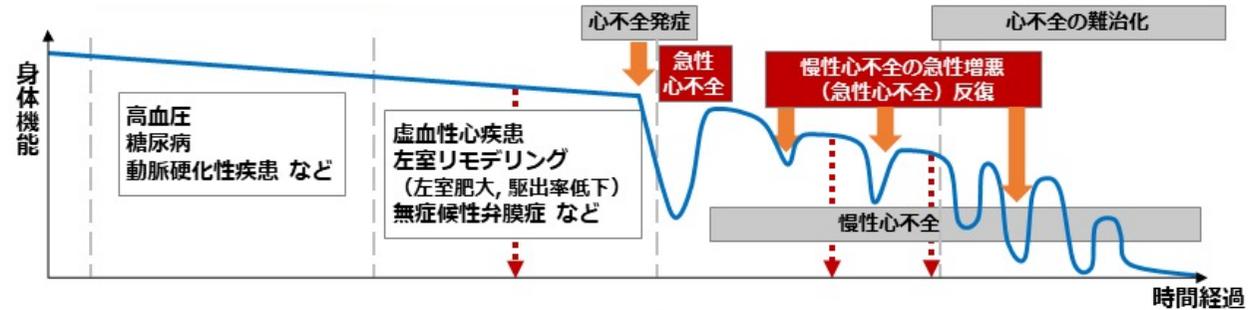
これから



学会がリーチできない場所をカバーします



「心不全は4回予防できる」



心不全の経過 →

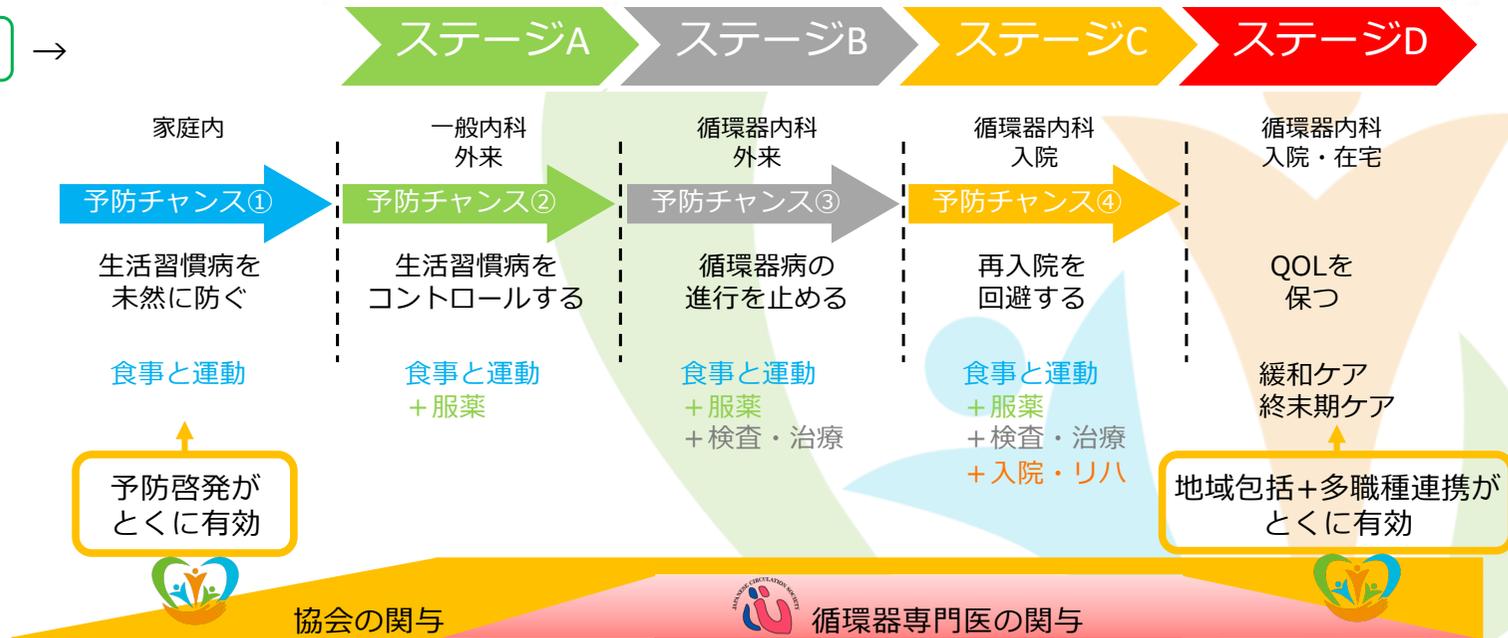
心不全のステージ分類 →

治療の場所 →

目標 →

方法 →

関与の割合 →



事業活動「7つの柱」を推進します



日本循環器協会
JAPANESE CIRCULATION ASSOCIATION

行政と企業



- 広報・啓発資料の制作・配布
- 医療産業向けレクチャー会



- 国外他団体との交流
- 国際イベントの開催

- 産学/患者団体連携に基づく調査研究
- 医薬・デバイスの市販後調査
- 基礎・臨床研究支援



調査
研究

医療
連携

- 急性期から慢性期までシームレスな医療連携



人材
育成

- チーム医療ネットワークの形成
- 循環器病メディカルスタッフ育成



患者
連携

- 患者・家族の療養サポート
- 予防及び治療に関する知識の普及啓発
- 患者支援のためのチャリティ活動



心不全は4回予防できる！

予防
啓発

- 一般向け及び企業向けセミナー
- ハートの日（8/10）シンポジウム
- SNSを利用した国民向け予防啓発



産官学
連携

国際
交流

日本循環器協会
JAPANESE CIRCULATION ASSOCIATION

日本循環器協会に関連団体



院内 ← → 院外

院“外”における諸団体との連携により予防啓発と患者サポートが加速！

コロナ禍の今だからこそ必要です



訪問診療にできること～最期まで人生を楽しく生き切る～ 佐々木淳

🕒 2020年11月2日

医療・健康・介護のコラム

新型コロナで、在宅の看取りが大幅に増加……医療との付き合い方が変わる

🐦 ツイート B! 0 📄 チェック

「何かあれば入院」から「できる限り在宅で」に流れが変わる

逆に、在宅から病院（入院）へのハードルは高くなっています。在宅患者の緊急入院の約4割が肺炎や尿路感染などの発熱性疾患です。これらの発熱性疾患に対し、新型コロナウイルス感染症ではないと除外診断（検査での陰性確認）ができていなければ、入院を受け入れない（受け入れたくない）という病院が増えました。

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20201030-OYTET50000/2/>

コロナ禍における 受診行動・医療サービスの特徴

1. ステイホーム→**受診控え**
2. コロナ**以外**の疾患の**診療延期・中止**
3. コロナ感染者の**隔離と面会禁止**

病院機能の低下



地域包括支援
在宅支援の需要増加



院外での連携した活動こそが、いのちを救います

在宅や施設での看取りが増えていきます



日本循環器協会
JAPANESE CIRCULATION ASSOCIATION

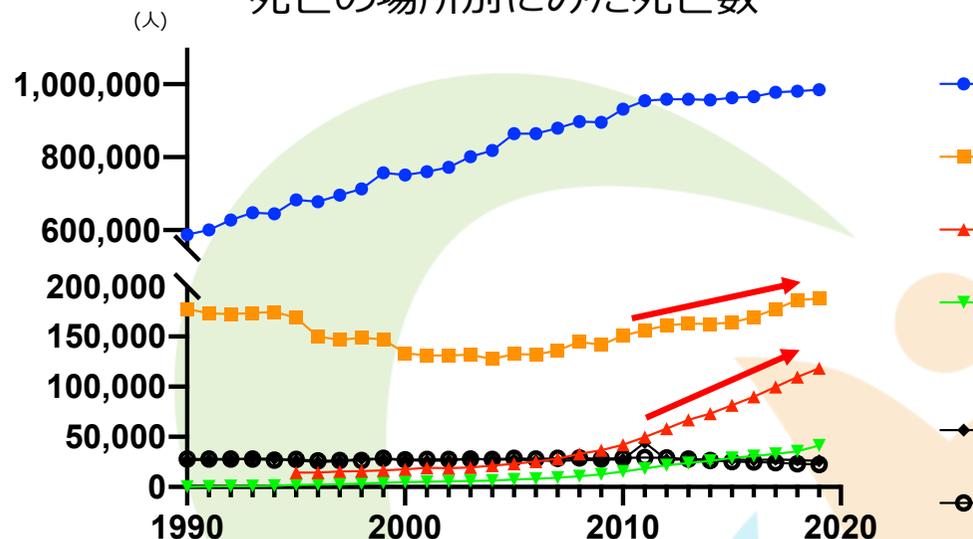
e-Stat

政府統計の総合窓口

統計名:	人口動態調査 人口動態統計 確定数 死亡
表番号:	5月5日
表題:	[上巻] 死亡の場所別にみた年次別死亡数・百分率
実施年月:	2019年 -

過去10年で増加している
在宅や施設での看取りが、
コロナ禍で加速すると予想される

死亡の場所別にみた死亡数



病院外でも患者サポートを十分に行える
ネットワーク形成が“いま”求められています

受診控えで循環器病が重症化の恐れ

新型コロナウイルス感染症拡大後、急性心筋梗塞発症から受診までの時間が長くなり、重症合併症の増加につながった可能性について報告

<http://dx.doi.org/10.1136/openhrt-2020-001497>

コロナ禍の“いま”だからこそ
正しい情報による広報啓発が重要です

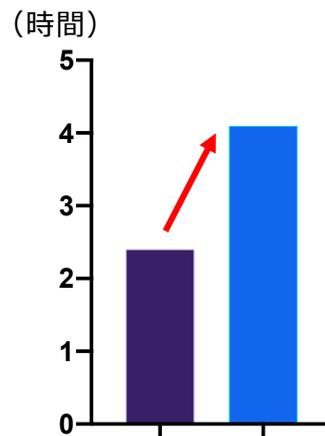
「我慢しないで受診して！」

病院に受診したらそこで
コロナに感染しちゃう！
受診せずにガマンだ！

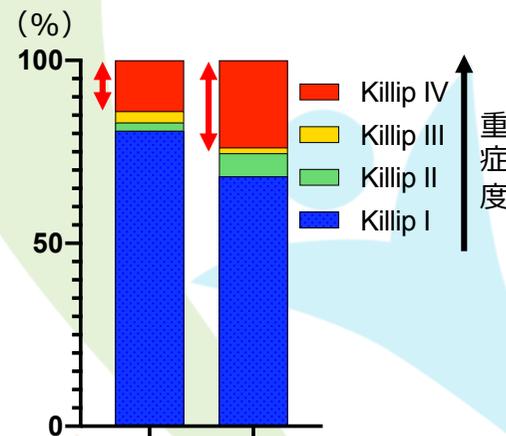


第1回緊急事態宣言発出の→

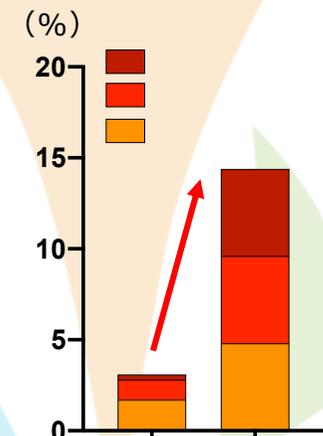
急性心筋梗塞発症から
受診までに要した時間



心不全の重症度



機械的合併症



まとめ

- 循環器病は“いま”対策が必要な大きな課題です。
- 循環器病領域には「協会」がないため、患者やサポート企業、自治体との連携が限定的です。
- 日本循環器協会は循環器病専門医のみならず、在宅医療、健診、患者会、企業、看護、メディアを含めた多職種で構成されます。
- 協会事業（啓発、療養サポート、調査、交流など）を通じて、患者・家族、自治体、企業との連携が加速することによって、循環器病の予防、診療、研究が進みます。
- コロナ禍が続く今こそ必要な医療補助システムです。